

美術學校と西洋畫(下)

(黒田清輝氏の談話)

◎歴史畫を課題とすればとて何も歴史畫を重んじての譯ではない假令ば智識とか愛とか云ふ様な無形的の畫題を促へて充分の想像を筆端に走らする如きは無論高尚なとされど二三年やツた位の處では出來そうにもしない其れよりは先づ相當な歴史畫を將ツて其課題とするのが至極稽古中に適すると思ひます

◎第四年の卒業試験——是れは第四年となれば全年を卒業製作の爲めに與へる即ち前半は其構案に後の半年は其製作にといふ様に……

◎學校はほんの畫を描く土臺を造る處言はゞ畫かきの下拵へ所です……此學校を卒業したからと云ツて一人前の畫家に爲つたと思はれては困る……三四年の修業で直ぐ畫伯といふ連中があられては大變……ところで美術學校では卒業試験に及第せしもの、中、學校の先生に爲る人は格別左様でなき人々は試験成績の優等の處十二三人を撰んで之にモデル其外充分の材料を與へて前の卒業製作をほんとうの者に仕上げさせ其仕上げたものを閱して最優等二人程を撰び佛國に留學させる筈です此等は總べて經費と相談の上にも依れど毎年二人宛として少くも三年間は彼地に留學させる心算です、而して留學生は滞在中時々博物館等の作を臨摹して美術學校に……丁度巴里から羅馬に畫家を出だして古畫などを寫し來させる様に……絶へず其摹本を送ツて來るとしたら參考品も良いのが殖へて斯道の發達を助けるだらうと思ひます

◎終始實地の便益を謀り自由に學問が出来る様にして往きたい精神ですから第三年に來て油繪を學びながらも人物の寫生を少し研究する必要の場合が生じたら隨意二年の科に至りて之を習ふとが出來二年生亦た時には一年生の中にはいりて石膏物の寫生をするともあるだろう時間になつたからと云つて仕事を離れられぬ場合があつたら時間後だ處がやつて居る様にしたい……先づ余の考は斯んな事です

◎いよく九月から洋畫科が始まるとなつたら豫科の中うちよりも來やうし本科の今迄日本畫をやつて居た人で之れに來るのもあるとか云ふとですから中々面白くなつて來ませう

◎油繪の具は今の處佛國より取寄せるのですが……此頃大學より化學士一人を聘しました是は油繪の具等の製し方を研究し追々日本の油繪の具を製する様にしたい考へなので……ソレで日本人の頭腦あたまから調査した繪の具が出來日本の畫家が之を使ふとなつたら其れこそ日本化せる洋畫が始めて其時に見られるでせう (完)

『毎日新聞』明治十九年六月九日

本文献は明治二十九年六月二十八日発行の『京都美術協會雑誌』四九に転載された。『絵画の将来』では『京都美術協會雑誌』掲載のものを収録している。